

ミネソタ大学への留学

藤田保健衛生大学 林 直樹

フィラデルフィア国際空港からミネアポリス・セントポール国際空港までは 3 時間程度のフライトであった。ミネアポリス・セントポール空港はミネソタ州を代表する空港で、デルタ航空のハブ空港でもあり、成田空港からも毎日ノンストップの直行便が運行されている(2010 年 8 月時点)。所々に日本語標記の案内もあって日本人にやさしい空港である。空港からはライトレールと呼ばれる電車が走っており、ミネアポリスの中心街まで 30 分足らずで行くことができる(Fig. 1)。



Fig. 1 ライトレール外観

空港から電車一本で市街地へ行くことができる

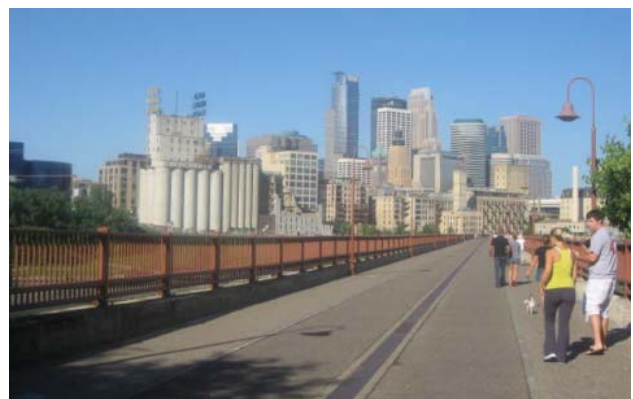


Fig. 2 ミネソタ市街地の様子

ミシシッピ川にかかる橋から市街地を望む

ミネソタ州は水、湖の州とも言われ、州内には無数の湖がある。アメリカを代表する川であるミシシッピ川の水源はミネソタ州にあり、ミネソタ州を代表する都市であるミネアポリスとセントポールをミシシッピ川が二分している。ミネアポリスとセントポールは人口(ミネアポリス：セントポール=約 38 万人：27 万人)も面積も同じくらいで、双子の町(ツインズ)といわれている。ミネソタ州のメジャーリーグ球団である、ミネソタツインズはここから来ている。しかし、その性格は異なっていて、ミネアポリスは経済や芸術が活発な近代的テイストを持ち、セントポールは歴史を感じさせる落ち着いた文化的テイストを持っている(Fig. 2)。ミシシッピ川が織り成すそのコントラストと美しい融合はまことに趣深い。

ミネソタ大学は 1851 年に設立された州立大学で、ミネソタ州内に 4 つのキャンパスを持っている。学生数は 5 万人以上で教員数は 3 千人以上と、全米で 4 番目の規模である。メインキャンパスのツインシティキャンパスはミネアポリス市街地からバスで 3 区間、約 2 キロの位置にある。11 平方キロメートルの敷地面積を誇り、キャンパス中央をミシシッピ川が流れ、キャンパス内は学内バスで移動できる。私が今回お世話になるミネソタ大学医学部の本拠地はこのキャンパスにあり、研修を行った University

of Minnesota, Medical Center (UMMC)はミシシippi川のほとりに建っている(Fig. 3).



参照) Google map

Fig. 3 ミネソタ大学ツインシティキャンパスとアパート, UMMC の位置

ミネアポリス市街地に到着後、直ぐに大学へと向かった。大学へは市街地からバスで10分の距離であった。大学内にバス停が3つあるほどキャンパス敷地面積は広く、バスを下りてから数分歩き、School of Medicine, Therapeutic Radiologyへと到着した。到着後にWatanabe先生にお会いして簡単な打合せを行った後、Watanabe先生は施設を案内してくださった(Fig. 4,5)。UMMCの詳細については別項に記述するが、全てにゆとりを持って設計されていた。施設内を回っている際に、「これからここで学ぶのだ」と実感がわいてきたことを憶えている。到着日が金曜の夕方だったため、その日はそこで解散となった。



Fig. 4 UMMC 外観

地上8階, 地下1階構造



Fig. 5 UMMC の受賞メダル

様々な医療技術で金賞を得ている

その後私は荷物を持って 1 ヶ月半の間滞在するアパートへと向かった。アパートは UMMC から徒歩で 30 分程度の所にあり、バス・トイレが共同の歴史を感じる建物であった。管理人が一人滞在し、部屋数は 10 部屋ほどで、実にアットホームな雰囲気であった。利用者のほとんどが、私のようなミネソタ大学への外部研究員や留学生で、学部を超えた交流ができる。宿泊費は 45-80 ドル/日程度で 1 ヶ月半の滞在ならば 10-15 万程度である。私の部屋は 3 階の屋根裏部屋。安さを追求したため仕方の無いことだが、決して広くは無く、見晴らしが良いわけでもない。しかし、無線インターネット接続や電源、エアコンなどの必要なものは揃っており、一人で滞在するには十分な環境であった。このような環境で私のミネソタライフは始まった。



Fig. 6 滞在したアパート外観
築 80 年の歴史を持つ



Fig. 7 室内の様子
ベッドはダブルサイズ、無線 LAN も

余談であるが、アパートに滞在 2 日目にして雨漏り、そして扉の鍵の調子が悪いという事態が発生し、事情を説明したところ、管理人は誠意を示してくれた。~~値切って...~~ 事情は説明してみるものである。